目　次

安全上のご注意 ……………………… 1

1．はじめに ……………………… 3

2．仕様 ……………………… 3

3．各部名称 ……………………… 4

4．使用上の注意 ……………………… 6

5．据付 ……………………… 6

6．運転 ……………………… 7

7．異常時の対応 ……………………… 7

8．撤去 ……………………… 7

9．保守 ……………………… 8

10．日常の注意事項 ……………………… 8

安　全　上　の　ご　注　意

（重要事項です。必ずお守りください。）

ここに示した注意事項は、本装置を正しく安全にお使いいただき、周囲への危害や損害を未然に防止するためのものです。これらの注意事項は、機外や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「注意」「警告」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

表示の説明

⚠ 警告
取り扱いを誤った場合に、人が死亡または重傷を負う危険があるもの。

⚠ 注意
取り扱いを誤った場合に、人が傷害を負うか又は物的損害が発生する危険があるもの。

図記号の説明

⃠	禁止 （してはいけないこと）

❗	強制 （必ずすること）

⚠ 警告

- ⃠ 本装置は非常に高い圧力水を発生しますので、絶対に人・動物・自分の体に向けて噴射しないでください。
- ⃠ ディーゼル散水機のカバー類を取り外したまま絶対に使用しないでください。
- ⃠ 運転中は回転部分に絶対に近づかないでください。
- ❗ 取扱液や設置場所、電源等仕様から外れた範囲では使用しないでください。
  ポンプ故障やけがまたは感電や漏電、火災の原因になります。
- ❗ 風通しがよく、ほこり、腐食性及び爆発性ガス、塩分、湿気、蒸気、結露のないところに設置してください。 悪環境下では、電動機・制御盤の絶縁低下などにより、漏電、感電、火災の原因になります。
- ⃠ 吊上げ状態での使用及び作業は危険ですので絶対に行わないでください。
  落下やけがの危険があります。
- ❗ ガソリンやシンナーなどの可燃物置き場の近くには設置しないでください。
  火災の原因となります。
- ⃠ ディーゼル散水機には水をかけないでください。
  感電・漏電・火災や故障の原因になります。
- ⃠ 通電状態で充電部には触らないでください。
  感電の恐れがあります。
- ⃠ 修理技術者以外の人は、絶対に分解・修理は行わないでください。
  感電・漏電・火災や故障の原因になります。 発火又は異常動作・破損により、けがをする恐れがあります。
- ❗ 点検・修理の際は必ず原動機を停止させてください。 またバルブを開閉してポンプ・配管内の圧力を抜いてください。 感電やけがをする恐れがあります。
- ⃠ メーカ純正以外の部品の取付けや改造は行わないでください。
  異常動作・破損などにより、けがをすることがあります。

※ ディーゼル散水機に関する警告事項は、散水機とディーゼルエンジンの取扱説明書をご確認ください。

⚠ 注意

⦸ 清水以外の液体・油・海水・有機溶剤などには使用しないでください。
ポンプが故障し、漏電や感電の原因になります。

❶ 水平で平坦な場所に設置してください。
不安定な場所に設置しますと、振動や故障の原因となります。

❶ 必要時以外はタンク点検扉を閉めてください。
タンク内に異物が混入し、動作不良や性能不良、ポンプ故障の原因になります。

❶ 水張り前に、タンク内のポンプ吸込部ストレーナに詰まりがないか確認してください。
ストレーナが詰まった状態で運転すると、性能不良やポンプ故障の原因になります。

⦸ 空運転は絶対にしないでください。通常始動後約5分以上しても給水しない場合は、
保護装置が作動し、渇水停止します。原因を取り除いてから使用してください。

❶ タンク給水圧力は0.75MPa以内で行ってください。
規定値以上でご使用になると、給水部ボールタップが破損しタンクから水があふれる恐れがあります。

❶ 吐出ホースは耐圧1.0MPa以上のものをお使いください。
規定値以下のホースでは、高圧水によりホース破損やけがの原因になります。

❶ 使用しない給水口・吐出口のボールバルブは「全閉」にしてお使いください。
漏電や感電、けがの原因になります。

❶ ポンプ吸込配管のストレーナは週1回、必ず点検・清掃してください。
ストレーナ詰まり状態運転すると、ポンプが空運転となり故障の原因になります。

❶ 本装置の使用の推奨温度は0℃～40℃までです。吸水温度は最高40℃までです。

❶ ディーゼル散水機は風通しの良い状態でお使いください。
過熱により、発火・故障の恐れがあります。

❶ 凍結の恐れがある場合は、保温・ヒータ取付・排水などにより凍結防止を行ってください。
ポンプ停止中に内部の水が凍結すると、ポンプ破損の原因になります。
また、外気温度が0℃以下になる場合は、原動機を始動させてポンプ及び配管内に
不凍液を吸水させてください。

❶ 運転を休止する場合は、タンク・ポンプ・配管内の水を抜いてください。
滞留水が腐敗し、雑菌が流出する恐れがあります。

❶ 故障と思われる場合は、すぐに原動機を切りご使用を止めてください。

❶ 長期保管する場合は、ディーゼル散水機の燃料タンク内を燃料を抜き取り、火気や湿気の
ないところに保管してください。

⦸ 運転中及び停止直後はマフラーやマフラーカバー、エンジン及びその周辺は熱くなっています
ので、手や肌が触れないようにしてください。

⦸ 運転中は高圧線、及びキャップ部等に触れないでください。
感電、漏電のおそれがあります。

※ ディーゼル散水機に関する注意事項は、散水機とディーゼルエンジンの取扱説明書をご確認ください。

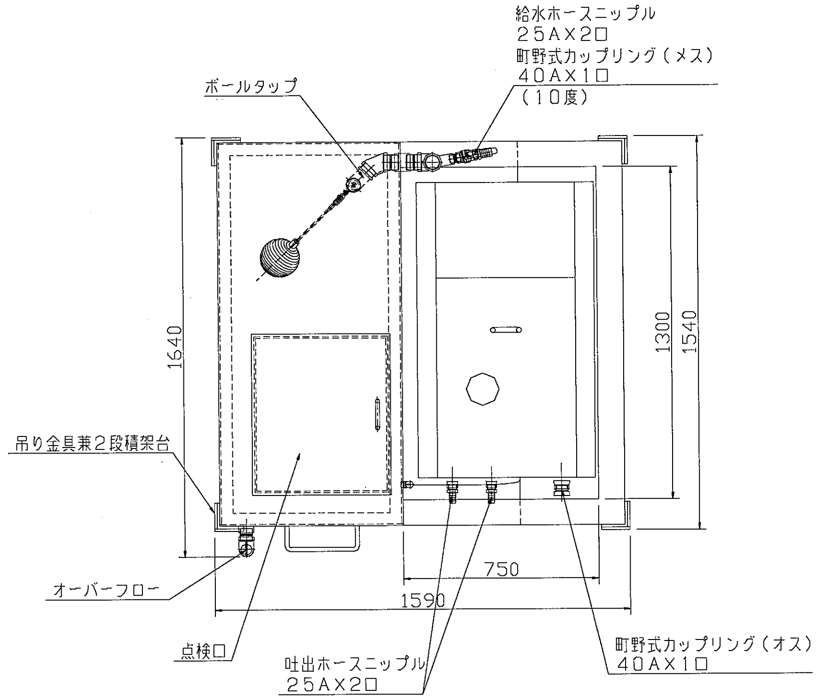
1. はじめに

散水装置運転の前に、取扱説明書を十分ご理解の上、正しくご使用ください。
誤った使い方をしますと、思わぬ事故を引き起こすことがありますのでご注意ください。
また取扱説明書は、使用する人がいつでもお読みできる場所に保管してください。

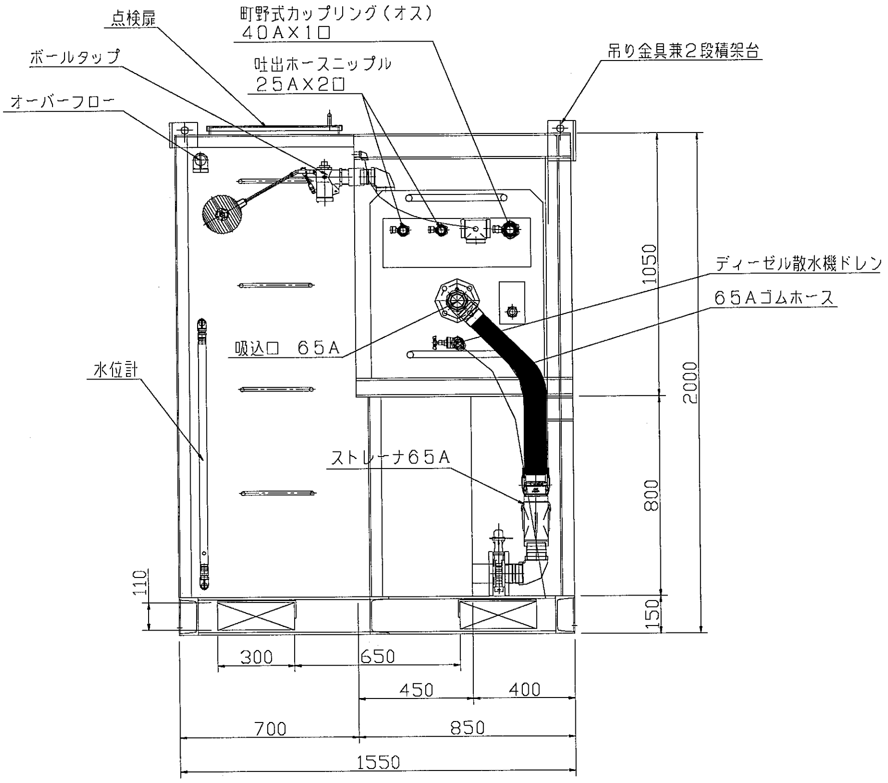
2. 仕様

ディーゼル散水機　型式	SEL-300SS-1
搭載ポンプ型式	GHS-65A　自吸式タービンポンプ
原動機出力	7.5kW　(10 PS)
流量	300L/min
全揚程	60m
タンク	容量 :2.78m^3 (有効容量2.37m^3) 板厚 :4.5mm
吐出ホース接続口	40A町野式オスカップリング×1 25Aホースニップル×2
タンク給水接続口	40A町野式メスカップリング×1 25Aホースニップル×2
タンク給水口	50Aボールタップ式
保護装置	渇水停止 (渇水検知5分後停止)
装置寸法(最大外形)	W1640mm×L1590mm×H2050mm
装置質量	約1,136kg　(乾燥質量)
塗装	内面 :エポキシ樹脂塗装 外面 :メラミン焼付塗装

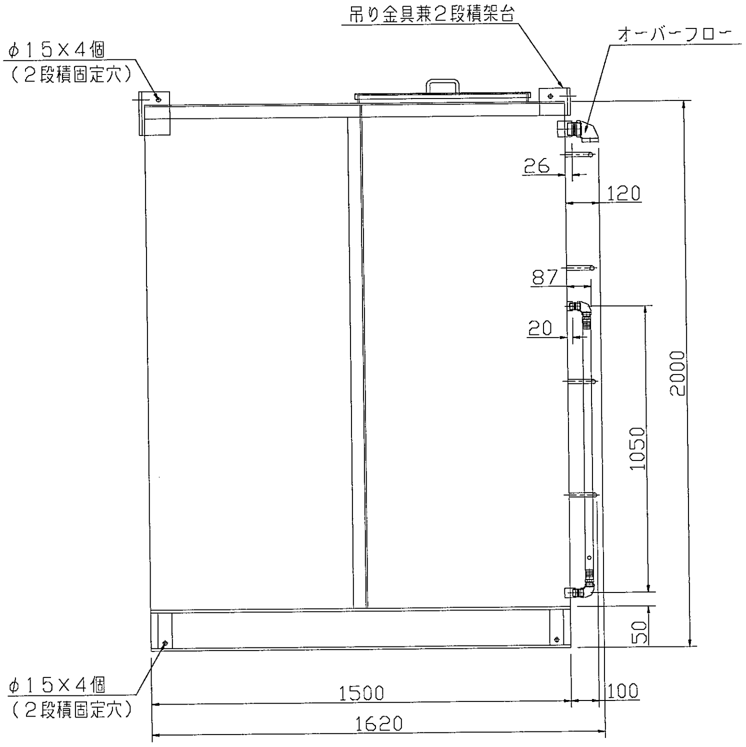
3. 各部名称


給水ホースニップル
25AX2ロ
町野式カップリング（メス）
40AX1ロ
（10度）
ボールタップ
1640
1300
1540
吊り金具兼2段積架台
オーバーフロー
750
1590
点検口
吐出ホースニップル
25AX2ロ
町野式カップリング（オス）
40AX1ロ

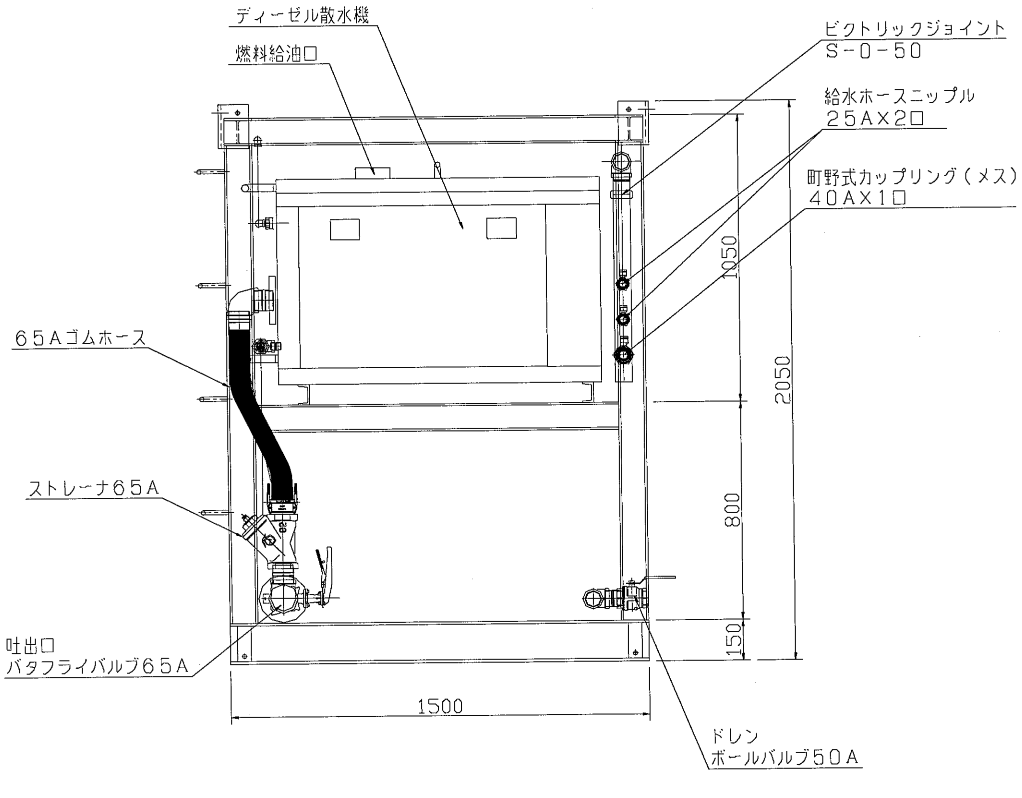
【上　面】


点検扉
町野式カップリング（オス）
40AX1ロ
ボールタップ
吐出ホースニップル
25AX2ロ
吊り金具兼2段積架台
オーバーフロー
ディーゼル散水機ドレン
65Aゴムホース
1050
吸込口　65A
水位計
2000
ストレーナ65A
800
110
150
300
650
450
400
700
850
1550

【正　面】


吊り金具兼２段積架台
オーバーフロー
φ１５Ｘ４個
（２段積固定穴）
26
120
87
20
2000
1050
50
φ１５Ｘ４個
（２段積固定穴）
1500
100
1620

【左側面】


ディーゼル散水機
燃料給油口
ビクトリックジョイント
Ｓ－０－５０
給水ホースニップル
２５ＡＸ２口
町野式カップリング（メス）
４０ＡＸ１口
６５Ａゴムホース
ストレーナ６５Ａ
吐出口
バタフライバルブ６５Ａ
1050
2050
800
150
1500
ドレン
ボールバルブ５０Ａ

【右側面】

4. 使用上の注意

4-1 使用条件範囲

次の使用条件を守って下さい。

■ 設置場所

1)	周囲温度	MAX40℃
2)	相対湿度	MAX80%（結露なきこと）

■ 取扱液

1)	液質	清水（pH5.0～8.6）
2)	液温	3～40℃

4-2 取扱い上の注意

1) 本装置を移動する際は、所定の吊り金具または、フォークリフトにてバランスを見ながら行って下さい。 所定の吊り箇所以外は使用しないで下さい。破損や故障、本機の落下等の原因になります。

2) ディーゼル散水機の天板や周囲1m以内に物を置かないで下さい。
特に燃えやすい物は、近くに置かないで下さい。火災の原因になります。

3) 埃が多い場所、有害ガスや爆発性のあるガスが含まれる場所には設置しないで下さい。周囲に燃えやすい物や危険物があったら排除して下さい。

4) 給水には必ず清水をご使用下さい。ポンプ故障の原因になります。

5) タンクは必ず満水にしてから、ポンプを起動して下さい。渇水時は運転出来ません。

6) 吐出ホースは必ず耐圧1.0MPa以上の物を使用して下さい。破損や破裂等の原因になります。

7) タンク内の点検をする際は、本機側面の梯子で昇降して下さい。
また、異物が混入しないよう点検時以外は点検扉を閉めて下さい。

5. 据付

1) クレーンで揚重する場合、吊り上げワイヤーの張角度は水平面に対して45° 以上取って下さい。 破損や故障、落下等の原因になりますので、所定の吊り箇所以外は使用しないで下さい。

2) 平らな場所を選んで水平に設置して下さい。 水平が十分でない場合、給水ロボールタップが正常に動作せず、ポンプ破損等の重大な故障の原因になることがあります。

4) 吐出ホースニップルのボールバルブを全て閉じ、タンクに水張りをして下さい。
給水ホースは給水ホースニップル（25A）又は、町野式カップリング（40A）に接続して下さい。使用しない給水口のボールバルブは全閉にして下さい。
タンクが満水になったらボールタップにより自動で給水を停止します。
給水圧力は0.75MPa以下として下さい。規定値以上では、満水停止が出来なくなります。

5) 吐出ホースニップル（25A、40A）にホースを接続し、ホースバンドでしっかり締め付けて下さい。 使用しない吐出ホースニップルのボールバルブは全閉にして下さい。

6.　運転

6-1 運転準備

1)　起動前に、エンジンオイル・冷却水・燃料・バッテリー液量等を確認して下さい。
起動方法・始動前点検項目は、ディーゼルエンジンの取扱説明書をご確認下さい。

2)　ディーゼル散水機に呼び水をします。
詳しくは、ディーゼル散水機取扱説明書P-16 『運転方法』をご確認ください。

3)　各バルブの状態を確認して下さい。
①散水機吸水配管バタフライバルブ・・・・・全開
②散水機吐出バルブ25A(2口)・・・・・・・・・・全閉
③散水機吐出バルブ40A・・・・・・・・・・・・・・・全開
バタフライバルブが閉じているとポンプが空運転となり、破損する原因になります。

4)　ディーゼル散水機の側面『大型メンテパネル』を開け、エンジンの燃料コックを
" 開 "にします。

5)　ディーゼル散水機のエンジンを始動します。
詳しくは、ディーゼル散水機取扱説明書P-18 『運転方法』、
ディーゼルエンジン取扱説明書P-4 『始動の仕方』をご確認ください。

6-2 運転・停止

1)　使用する吐出ボールバルブを" 開 "にして散水ノズルを開けると、散水を開始します。
空運転や吐出ボールバルブを全て閉じた状態で5分以上運転しないで下さい。
5分以上作業をしない場合は、必ずエンジンを止めて下さい。

2)　運転を停止する場合は、ディーゼル散水機のエンジンスイッチを" OFF "にします。
詳しくは、ディーゼルエンジン取扱説明書P-5 『停止の仕方』をご確認ください。

7.　異常時の対応

異常時の対応は、ディーゼル散水機取扱説明書P-25 『故障と対策』をご確認ください。

8.　撤去

1)　ディーゼル散水機のエンジンを停止し、側面『大型メンテパネル』を開け、
燃料コックを" 閉 "にして下さい。

2)　散水ノズルと吐出バルブを開け、散水ホース内の圧力を抜いてから、接続された
散水ホースを外して下さい。

3)　ドレンボールバルブを開け、タンク内の残水を排出して下さい。

4)　ディーゼル散水機のポンプドレンバルブを開け、ポンプ内の散水を排出して下さい。

5)　本機を移動する際は、所定の吊り金具または、フォークリフトにてバランスを見ながら
行って下さい。 クレーンで揚重する場合、吊上げワイヤーの張角度は水平面に
対して45°以上取って下さい。 破損や故障、落下等の原因になりますので、所定
の吊り箇所以外は使用しないで下さい。

9. 保守

9-1 ストレーナ

ポンプ破損や性能低下の原因になりますので、定期的にストレーナを開けてごみを取り除いて下さい。 ストレーナはタンク内ポンプ吸込口とポンプ吸込口の2箇所にあります。 タンク内ポンプ吸込口部ストレーナの保守は、本機上部の点検扉より行って下さい。

9-2 ディーゼル散水機

ポンプ・エンジンの各部点検項目、消耗部品の交換目安については、ディーゼル散水機取扱説明書をご確認下さい。
取扱説明書に基づき、日常点検・定期点検を行って下さい。

10. 日常の注意事項

注意!! **ポンプの故障・破損を防ぐため、次の事は必ずお守りください。**

空運転を防止するため、

●運転前に、バタフライバルブ゛を「全開」にする。

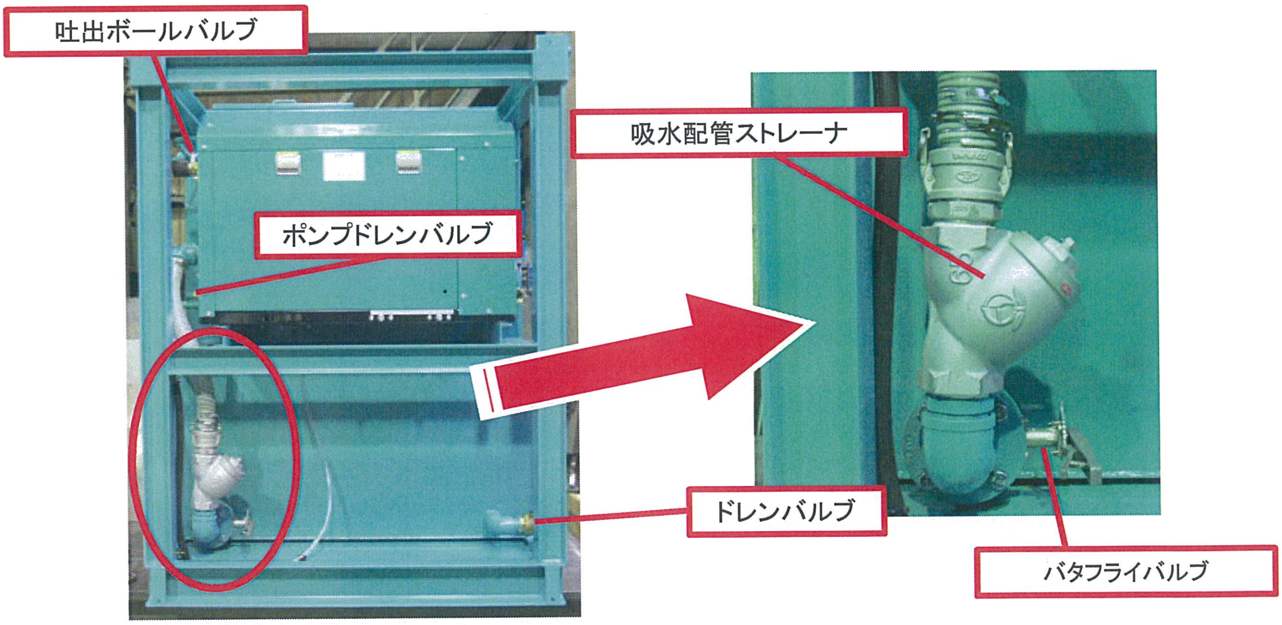
●ディーゼル散水機吸水配管のストレーナは週に1回、必ず清掃する。

●ディーゼル散水機運転時に異常音がするときは、すぐに運転を停止する。

タンク内への異物混入を防止するため、

●タンク内の点検・作業時以外は、上部の点検扉を必ず閉めておく。

寒冷地での使用の際は凍結防止のため、運転を停止した時、

●ディーゼル散水機ポンプドレンバルブを「全開」にして排水し、タンク内を「空」にする。

●吐出ボールバルブ・ディーゼル散水機吸水配管のストレーナを開け、配管内を排水する。